

■研究・実践の課題（テーマ）

実務者のための栄養ケアマネジメント研修会（臨床栄養分野）

■主任研究者 塚原丘美

■共同研究者 立花詠子、畠山桂吾

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

【目的】

2014 年度、名古屋学芸大学管理栄養学部卒業生の中から東海地方のキーパーソンになるような病院栄養士を育成するために、臨床栄養分野の研究活動を始めるきっかけ作りを目的として研修会を開催した。参加者 7 名のうち、学会発表ができそうなレベルまで結果をまとめることができたのは 2 名であり、残りの 5 名はさらに修正を行ないながらデータを収集する必要がある。

そこで、本年も研究結果のまとめ方等の研究指導を行ない、学会発表できる力を身につけ、まとめた結果を臨床系あるいは栄養系の学会で口頭発表を行う。これを「実務者のための栄養ケアマネジメント研修会（臨床栄養分野）」のゴールとした。

さらに、近年、栄養管理の手順を国際基準にするために「栄養ケアプロセス」が勧められている。しかしながら、これまでに開催されている研修会では十分に理解できないことが多い。そこで、管理栄養士実務者を対象に「栄養ケアプロセス」を理解するための研修会を特別に開催した。

①実務者のための栄養ケアマネジメント研修会

【研修会内容】

対象：2014 年度、実務者のための栄養ケアマネジメント研修会（臨床栄養分野）の参加者

日程及び会場：

（第 1 回） 2015 年 11 月 7 日（土） 桑山ビル 4 名参加

途中段階での研究内容を発表し、方法、結果のまとめ方、統計解析の方法、考察の内容などについて、参加者でディスカッションした。

（第 2 回） 2016 年 3 月 12 日（土） ウィンクあいち 2 名参加

途中段階での研究内容を発表し、方法、結果のまとめ方、統計解析の方法、考察の内容などについて、参加者でディスカッションした。

【結果】

2 年間で本研究所年報に原著として投稿できたものは 2 名、学会で口頭発表できたものは 2 名、院内の研究会やカンファレンスで発表できたものは 2 名であった。これらのゴールまで達しなかったのは 3 名であるが、現在も研究を継続しており、今後の結果が期待できる。研究タイトルと成果を以下に示す。

3 期生：畠山桂吾（名古屋第二赤十字病院） → 食事療法学会で口頭発表

「NST 介入前後における経口摂取量の比較検討」

3 期生：石郷岡亜美（四日市糖尿病クリニック）

「1 型糖尿病患者でのカーボカウントの使われ方調査」

- 3 期生：志田衣里（総合青山病院） → 院内研究会で口頭発表、研究所年報に投稿
「糖尿病腎症の指導効果」
- 4 期生：増田明啓（安城更生病院）
「経鼻経管栄養法における半固形化投与の有用性について」
- 5 期生：要石愛加（名古屋第二赤十字病院） → 院内の移植外科カンファレンスで発表予定
「腎移植後患者に対する栄養指導の効果」
- 6 期生：藤掛満直（蒲郡市民病院）
「糖尿病患者への栄養指導における炭水化物エネルギー比の検討」
- 8 期生：谷口可純（わたなべ内科クリニック） → 日本栄養改善学会で口頭発表、研究所年報に投稿
「軽度の日常運動が糖尿病患者の基礎代謝量に及ぼす影響」

②実務者のための栄養ケアマネジメント研修会『栄養ケアプロセスをマスターする！』

【研修会内容】

対象：当大学を卒業した管理栄養士実務者

日程及び会場： 2016年 2月21日（日） ウィンクあいち 20名参加

午前は講義で基礎を学習し、午後は4名程度のグループに分け、症例をもとに演習を行なった。

【結果】

終了前に行なったアンケートより、栄養管理プロセス全体、栄養診断、PES 報告書などについての理解度が約3割から約8割へ高くなり、この栄養管理方法を良いものとして捉えている者がほとんどであった。研修会の内容については、講義と演習の組み合わせについては満足度が高かったが、演習の時間が足りないという声が多く、もっと学習したいと希望する者も数名存在した。経験年数や職種を揃えずにグループ分けを行なったこともあり、新しい考え方などを聴き、お互いに刺激し合うグループダイナミクスが期待される方法であった。

この学習会の目的としていたレベルまで達成できたと思われ、希望があれば来年度も開催したい。